Arne Næss の Self-realization における野外活動の意義
－「一体化・同一視」の概念に着目して－

伊藤相（東京学芸大学）

１．目的

本研究は、Arne Næss の Self-realization（自己実現）概念およびその具体的経験の位相である一体化・同一視（identification）概念の考察を通して、Næss の思想における野外活動の意義を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

本研究は理論研究であり、その研究の手順として、まず本研究の主題となる Self-realization 概念の思想的位置づけとその含意を整理した。続いて、Self-realization に不可欠のプロセスとされる一体化･同一視がいかなる経験であるかについて、Næss の記述および主要なディープ・エコロジストによる考察を検討したうえで、M. Buber の＜我－それ＞＜我－汝＞関係の概念を援用しながら、一体化・同一視の新たな解釈を試みた。また、それまでの考察をふまえ、人間と自然の＜我－それ＞＜我－汝＞関係の観点から Self-realization における野外活動の意義を明らかにした。

３．考察

１）Self-realization とは

Self-realization は、Næss 個人の哲学体系であるエコソフィ T において最優先価値あるいは最高規範と位置付けられる、「存在固有の潜在的可能性の実現」を意味する概念である。Næss の思想において人間は、他の生命と自己との一体化・同一視を通してエコロジカルな自己（ecologocal self）を拡大・深化する潜在的可能性をもつ存在であるとされる。Self-realization は、このようなエコロジカルな自己の成熟を通して、利己的欲求の満足（自我実現）よりも豊かな生の意味や喜びを感受すること、さらにその帰結として他の生命の潜在的可能性の実現を積極的に希求することをも含意している。

２）一体化・同一視とは

Næss は関係論的存在論・現象学的見方の立場から、機械論的自然ではなく、具体的内容とゲシュタルト性・全体性を伴う生き生きとした自然を味わうことの重要性を主張する。一体化・同一視は、こうした Næss の存在論的・認識論的立場を前提として、エコロジカルな自己のアイデンティティが動的に生成する様相を表す概念である。またその内実は、自然との直接的な関わりにおいて根源的な生を感得する主客合一の経験であり、Buber の用語を用いて「＜汝＞的自然との出会い」と解釈し得るものである。そして、この「＜汝＞的自然との出会い」における自然の内在的価値への直観やエコロジカルな自己アイデンティティの内面化は、＜それ＞的自然との関わりにおいて自己の在り方を問い直す指針、すなわちエコソフィの基盤となるものと考えられる。

３）Self-realization における野外活動の意義

野外活動においても、人間と自然の関わりは＜我－それ＞＜我－汝＞関係の二つが想定されるが、「＜汝＞的自然との出会い」としての深い一体化・同一視は人間と自然の＜我－汝＞関係を前提とするものである。さらに、深い一体化・同一視が自然との密接かつ直接的関わりにおいて生じることを鑑みると、野外活動は Self-realization に直結する「＜汝＞的自然との出会い」の必要条件であるといえ、その意義は、「＜汝＞的自然との出会い」の契機となり得る点に見出される。

４．結論

本研究の成果として、Self-realization がエコロジカルな自己の成熟と人間の豊かな生の実現を同時に含意する概念であることが明らかとなった。また、Self-realization に直結する自然との深い一体化・同一視が、それ自体で価値内在的経験であるとともに、自己と自然との関係を不断に問い直すエコソフィの基盤を醸成し、エコロジカルな自己の成熟に寄与するものであること、野外活動が深い一体化・同一視の契機となり得るものであることから、主客合一の「＜汝＞的自然との出会い」を重視するような野外活動の在り方が示唆された。

５．主な参考文献

１）Næss, A.（1989）：*Ecology, community and lifestyle: Outline of an ecosophy.* Trans. and ed. by Rothenberg, D. Cambridge: Cambridge University Press.